

## 鉄道沿線で採用された石積壁の耐震補強工法

### — ピンナップ工法 —



#### ◎施工目的

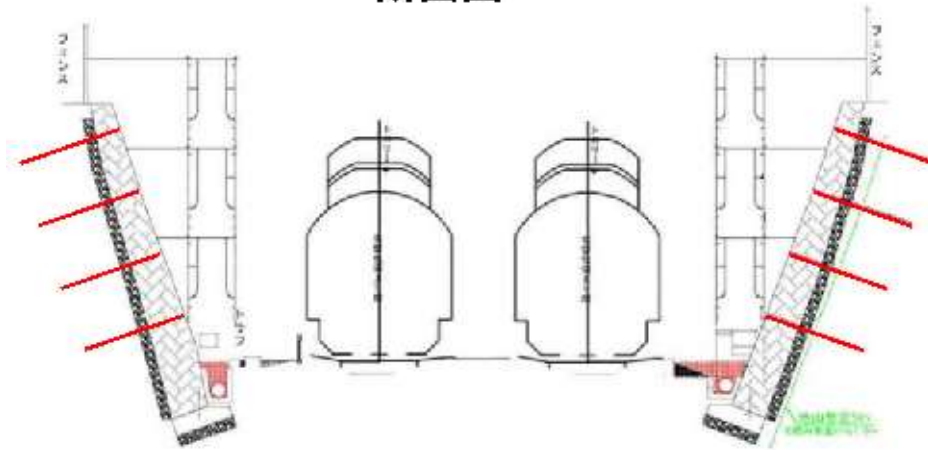
鉄道沿線の石積壁は、壁前面の敷地に余裕がなく、営業線を供用しながらの斜面施工となり、大規模な施工機械や足場を設けることが困難となります。

このような施工条件を踏まえ石積壁の耐震補強として、ピンナップ工法が採用されました。

石積壁高さによって、Ⅰ型、Ⅱ型のピンナップ工法を使い分けて施工し、頭部処理は景観に配慮し埋込式の定着キャップを採用しました。



## 断面図

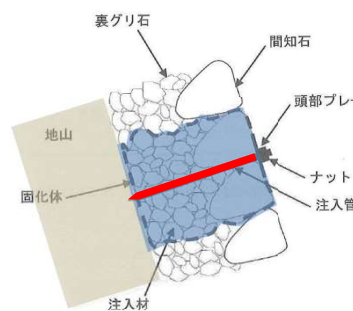


ピンナップ工法は、Ⅰ型（部分固化工法）、Ⅱ型（固化体定着工法）の2種類があります。

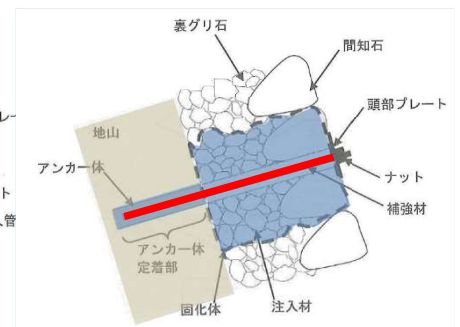
Ⅰ型は、間知石とその背後の裏グリ石を部分的に固化して一体化し、壁体の重心位置を背後側へ移動させ、これにより間知石の背面地山へのもたれ効果を増加させる工法。

Ⅱ型は、Ⅰ型で形成した固化体を背後の地山に定着して、裏グリ石が移動しない箇所を石積壁の中に確実に形成する工法。

### Ⅰ型



### Ⅱ型



## 景観に配慮した埋込式の定着キャップ

### 従来型定着キャップ



### 埋込式定着キャップ設置状況

